慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	組織的観念市場としての取引所 (市場経済社会に於ける取引所の意義)
Sub Title	
Author	向井, 鹿松
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1924
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.18, No.10 (1924. 10) ,p.1420(52)- 1457(89)
JaLC DOI	10.14991/001.19241001-0052
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19241001-0052

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

組織的觀念市場としての取引所

（市場經濟社會に於ける取引所の意義）

向井鹿松

一

-----die praktische Wirkungslosigkeit der Kritik, welche breite Volksschichten an den bestehenden Börsenzuständen üben, hat ihren Hauptgrund in einer grenzlosen Oberflächlichkeit, welche die Fehler da sucht, wo nur der Unverstand oder der Interessengegensatz sie finden kann. Die gleiche Oberflächlichkeit hat aber auch die geradezu gefährliche Vorstellung verschuldet, als ob ein bei jeder nicht streng sozialistischen Gesellschaftsorganisation schlechthin unentbehrliches Institut, wie die Börse ist, seiner Natur nach eine Art Verschwörerklub zu Lug und Betrug auf Kosten des redlich arbeitenden Volkes darstellen müsse und deshalb am besten irgendwie vernichtet würde und — vor allem — auch vernichtet werden könne. Nichts gefährdet aber eine Arbeiterbewegung-------, schwerer, als unpraktische, in Unkenntnis tatsächlicher Verhältnisse gesteckte Ziele.

以上は當代碩學 Max Weber が其小著取引所論の卷頭緒言に述べたる一節である。(1) 商業が社會の寄生蟲として社會主義的思想を懷くものと批難を受くるは世人の知る所であるが、市場形式として其最高度に達したる取引所、並びに商業の精髄を代表する投機師の行爲に至りては之を批難する者單に社會主義者のみに限らず、屢〻一般世人の攻擊の的となるのである。否實際我國に於ては取引所の立法及行政の事に當るものすら取引所の經濟社會に於ける地位に關し判然たる觀念を有せず、又取引所、市場、投機取引、差金取引等に關し明確なる觀念を有しないことは帝國議會に於ける取引所法改正委員會に於ける問答及び論難を讀む者の容易に之を認める所であらう。一般社會の取引所に對する無理解を嘆ずるもの獨り Weber のみではない。左に掲ぐる一篇は現代經濟社會に於ける取引所の意義を闡明して、其の必要缺く可からざる制度たる所以を叙述し、且つ株式會社其他の大企業及び大經營が、外形上社會主義者の唱ふるやうに新社會に到る一歩であると云ひ得るならば、取引所も亦現代市場形式の最高度に達したもので、同じく新社

會組織の原則を豫示するものなることを示さんとするにある。(二)

(一)　Max Weber, Die Börse, S. 17.

(二)　論者自づからの研究としては本論は、社會に於ける分化(分業)と集化(市場)及び市場發展に關する研究の一部であつて、本論は本誌第十八卷經濟政策の極致、及び經濟學説研究に於ける拙稿經濟的集化と觀念市場に續くものである。從つて本文では重復を避くる爲め、前に論じたる所は極めて簡單に叙述する。

二

取引所は近世大商取引の爲めの一制度であつて、之が現代經濟社會に於て缺く可からざる理由は、現代の經濟生活には現代の如き商業組織が必要であると云ふことゝその理由を同じくするものである。人は自づからの勞働によつて自然より其の必要とする物資を得るものであるが、之を得るや人は決して單獨之に從事するものでなく、必ず他人との協力に俟つこと尙母の懷に於ける子供の如きものである。吾人は太古より今日に到る迄未だ曾て各人が獨力自づから其の必要とする物を獲得し、敢て他人の援助を借りなかつた事實を知らないものである。人類が他人との協同を必要とすることは猶幼兒が母を選ぶと同じであつて、其の自由意思に基くものではない。共同體は人の生活の道程に與へられたる事實であつて、吾人は生れながらにして共同體の内に生活してゐるものである。そして人が共同體の内に他人と協力して其生活を立てて行く此の事實は此の世に人の生存する限り長く永續して行く事實であらう。けれども同じく共同體でも太古と現今のそれとの間には非常の相違が存在してゐる。かの所謂父系大家族は現代の家族制度の最古の形式であつて、又歷史上明かである所の最古の經濟共同體である。此等の家族は家長の下に多數の直系及び傍系の血族並びに僕婢を含む共同體であつて、彼等は協同して財貨を生産し、共同して財貨を消費する。而して彼等の消費する所のものは彼等の生産したる物に限られ、彼等の生産したるものは自づから之を消費するの外又他に用をなさなかつた所謂完全なる自給自足の經濟共同體であつた。かかる共同體の下に於ては假令其團體員の間に分業が行はれても、生産と消費は完全に一致し、其間に之を調節する何等特別の機關を必要としなかつた。蓋しこれ其の共同體を組織する者の數尙少なくして、生産と消費の空間的間隔なく、兩者の事情が座ながらにして知れ渡つてゐる結果であつて、所有

權の分割のなかつた事實に基くものではない。

之を現代の經濟生活の特徴と比較せんか、吾人は其間に全然反對の事實を發見する。今日一個人が財貨を生産するや、彼等は自づから消費する物を生産せず、自づから豫想して以て他人が消費す可しと信ずるものを生産し、自己自づからの消費には他人の生産物を取つて之に宛てるを普通とする。從て現代の人の生産の標準は自己が之を必要とするや否やに非ずして、他人が之を要求するや否やに在るものである。實に自己の生産物に對して社會的需要の存在するや否やは今日企業家が生産をなすや否やを決する唯一の標準となるものである。勿論舊共同體が崩壞するや直ちに以上述べたやうな之と正反對の經濟生活が行はれたものではない。其の茲に至る迄には其間に數千年間の歴史的發達を經過したものである。けれども個人が共同して經濟を營む點に於ては何等の相違を認めることは出來ない。蓋し個人が自づから生産するものを人に與へ、他人の生産する物を消費する生活方法は則ち共同して其生活を維持するものであるからである。而して現在の經濟秩序の下に於て分業による各個人を結合して之を共同體の實あらしむる手段は交換である。かかる交換による共同體は之を交換共同體（Austauschgemeinschaft）と云ふことが出來る。(一) 換言すれば自給自足の舊共同體が崩壞した後の各經濟は交換の手段によつて結びつけられて一つの交換共同體となつてゐるもので、而して此の共同體は其の發達につれて絶えず他の經濟を其の中に取入れ包括して、其の數と地域を增大し、今日にては遂に地球上に於ける文化國民全體を包括するに至つたのである。

人類が進化するにつけて其の慾望の種類は增加し、其の品質は向上し、從つて之に應ずる貨物の種類も亦增加するの道理である。而して之等の多數の種類の財貨はそれら經濟を異にする人々が分業によつて生産する所のものである以上は、今日吾人が文化的生活を行はんが爲めには數百人、數千人の勞働の結果たる此等多數の貨物を寄せ集め來らなければならないのであつて、此の爲めに更に生産以外特別の勞働を必要とするに至るものである。商業則ち之である。而して交換を其職分とする此の商業なる勞働は以上の共同體の地域の增大し、從つて又生産消費の空間的距離の大なるに從ひ益々之を必要とすること大となり、而して其職

分を完全に行ふことは益々困難となるものでなる。則ち商業なるものは現代經濟秩序の下に於て分業によつて分化せる各經濟單位を集化統一して一つの共同體の實あらしむるを其社會的職分とするものである。而して此の社會的職分は社會分化の程度の益々大なるに從ひ、而して此の分化の爲めに生ずる生産と消費の空間的距離の大なるに從ひ、換言すれば運輸の抵抗の大なるに從ひ、之を完全に行使すること愈々困難となるものである。然かり而して此の困難に打ち勝たんが爲めに商業に種々複雜なる組織と施設を必要とするものである。以下論述せんとする所は取引所なる商業施設も畢竟商業が此困難に打ち勝ち其の社會的使命を果さんが爲めに生じたものであつて、從つて社會の分化の程度尚淺く、集化の方法の尚困難ならざりし時代には之を必要とせず、近世に於て初めて其の發達を見るに至つた理由を説明せんとするにある。(二)

(一) Max Weber, a. a. O., S. 19.

(二) 交易經濟の發達し、交易の分量增加の爲めに生ずる商業組織の發展に就いては余は本誌第十七卷第十號に於て論じた。以下説かんとする所は交易經濟の發達に伴ふ市場施設の發展に關するものである。

III

Max Weber の所謂交換共同體(Austauschgemeinschaft)とは Oppenheimer の所謂市場經濟(Martstwirtschaft)の下に於ける經濟社會に該當するものである。かかる社會に於ては分業によつて分たれたる各經濟は交換によつて集化せられ、茲に一つの共同體又は經濟社會(Wirtschaftsgesellschaft)を構成するものである。而して商業は此の社會を生活の共同體たらしむる羈たること前述の通りである。然るに同じく共同體でも太古の家族形式たる父系家族では何等商業を必要とせず、而も嚴重に家族共同體として其の統一を保つたのは家族に對し絶對權を有してゐた家長の權力であつた。分業集化の方法が交易によると、權力によるとを問はず、苟くも生産と消費が分たれる以上は之を再び結合する爲に勞働を必要とするもので、之の勞働が商業たると他の方法たるとは敢へて問ふ所でない。(一)　然るに父系家族共産體の内には何故に之に相當する職能機關がなかつたかと云ふと、それはかかる職分を行ふ特別の機關を必要としなかつたからである。則ち如何なる物を何人が生産し、如何なる仕事を何人がなすやは家長自づから之を指揮し、而して何人が何を

生産したるやは、換言すれば如何なる物を消費し得るやは即時に之を知るとが出來、特に之を探索するの必要がなかつたからである。蓋し數十人の家族が一つの屋根の下に生活するに於ては其の家族が何を生産し、何を消費し得るや容易に之を知るとが出來るからである。(二) 此狀態の下では生産と消費は假令人的に分離しても空間的距離を生じない。從つて生産と消費は同一家屋内に於て再び相會するものであつて、供給物量(Vorrat)と需要物量(Bedarf)が同一場合に於て合致する點に於て家庭は一種の市場であり、此際生産及び分配を指揮する家長の權力は後世の市場に於て自由競爭の下に發生交換價値の職分を行ひ得るものである。(三)

贅澤品に對する需要の發生と共に交易は起り、貴重品は交換の目的物となつた。此の交易の爲めに遠隔の地より遍歷し來たれる獨立の商人の發生を見たけれども、贅澤品の交易によつては兩社會は尙經濟的に密接に結合せられて一社會となる程度には至らない。此等の交易は畢竟經濟生活上に於ける偶發的事項であつて、大なる意義を有しない。又古の村落住民間には種子、及び農具の貸借が行はれたけれども、金錢と共に無償であつて、從つて需供に基く代價の變動は彼等の間には知られなかつた所である。

此の關係が一變したのは中世都市の成立であつた。則ち都市と田舍の間に分業を生じ、都市に於ける住民は多く工業に從事し、田舍に居住するものは農業に從事した。茲に於てか田舍に於ける農民は其の必要とする工業品は之を都市の手工業者の生産に待ち、都市の住民は其の必要とする農産物を其の附近に居住する農民の生産物に依賴しなければならぬので、此の兩者を相交換することによつて彼等は初めて完全に生活することが出來たのである。則ち都市と田舍は相合して一つの交換共同體又は市場經濟社會をなすに至つたものである。

都市と田舍に分業が行はれる時は、都市には多數の住民居住し、之を中心とする田舍には又多數の農民が各地に散在するものである。茲に於てか生産と消費は空間的に甚だしく阻隔するからして生産と消費は最早かの父系家族共産體の下に於けるやうに自然的に一致するものではない。生産者及び消費者は互に其の必要とする相手方を廣き面積に亘る多數の人々の中に發見しなければならぬのであつて、此の爲めに多大の費用と時間を費やさなければならないものである。

則ちかの中世都市に於ける市場は此の必要に基いて起つたものである、生産者及び消費者が一定の時を定めて一定の場所に集合する時は最も容易に自己の求むる相手方と其の財貨を得ることが出來るのであつて、之によつて廣き面積に亘り散在する各經濟は分業を行ひつつ而も尙容易に一經濟社會に統一せられるのである。且つ彼等は此の市場に於て其社會に於ける各經濟が自己生産物の餘剩として、換言すれば他人の生産に依賴し得可き、又依賴するを利益とする凡ての種類を一目の下に通觀することが出來るからして、生産の方針も亦此の市場によつて定められるのである。

斯の如く生産者と消費者が直接市場に於て相接近することは中世都市の特徴であるが、當時此外尙主として商人間に取引の行はれた市場も存在した。此の市場は一ヶ年中に一定の時と場所を定めて開かれたもので、商品も比較的遠隔の地より持ち運ばれたものである。

（一）經濟學說研究拙稿經濟的集化と觀念市場參照

（二）Schmoller, Grundriss, I Teil, S. 246-9.

（三）Oppenheimer, Theorie der reinen u. politischen Ökonomie, S. 349-353.

四

以上述べた古き形式の市場を通しての特徴は賣買に附せられる財貨が現物として其の市場に持ち運ばれて存在することである。かかる現物取引は隔地取引に行はれるやうな品質上の相違、運送、信用其他から生ずる危險が存在しないからして極めて確實に行はれるけれども、此の方法は甚だしき缺點の存在するものである。則ちかかる一定の市場が存在する場合には、賣主と買主は如何に廣き面積に多數と共に居住しても之の方法によつて容易に接觸することが出來るけれども、此の爲めには賣主と買主と現物の三者が物理的に相接觸するを要し、人の活動は物質に拘束せられて自由なるを得ないものである。則ち彼等は如何に大量の物でも之を全部市場に持ち運ぶを要し、而して若し此處に買主を發見することが出來ない時は更に之れを他に移轉しなければならぬのであつて、此際之に要した勞力と費用は全く無益に費やされたることとなるものである。斯の如く人の活動が物財に拘束せられる以上は生産をして大量の爲めに之を市場に持ち運ぶことが出來ず、之が出來なければ大量生産も亦不可能となるものである。

分業を行ふ各個人が其生活を維持するには其の分業の結果を集合しなければならぬ。かくして始めて共同體の實を擧げるものである。けれども此の爲めには(一)共同體の團體員は其團體員の必要とする所のものを生産しなければならぬ。必要なきものを生産するは不經濟の極である。此の故にかかる共同體には各人は如何なるものを生産するや之を指揮又は指導するものがなければならぬ。(二)斯の如く何人が何を何處に生産する事實及び其生産の結果は各人に明瞭でなければならぬ。然らざれば容易に其分配に與かることが出來ない。而して此の內第一は生産の問題であつて、第二は分配の問題である。而して太古の父系家族制度の下に於ては一つの屋根の下に凡ての人が生活する結果として第二の條件は特別の施設なくして之を知ることが出來、第一の生産指揮の職分は家長の權力にありしこと前述した所である。然るに中世分業が各經濟單位の間に行はれ、生産と消費が都市と田舍の間に空間的に分たれる時に兩者を結び付くるものは交換である。而して此の際以上述べた二つの職分を行ふものは市場である。則ち何人が何を何處に生産し何人の何を要求するか之を知る爲めに一定の時に一定の場所に集合し、現物に付いて之を見るものである。而して彼等が將來如何なるものを幾何生産するやは市場に於て自由競爭の下に形成せられる交換價値によつて指導せられるものである。(一)然るに此の市場によつて結合せられる各人の經濟的活動が上述の如く物質に拘束せられる以上は(一)大量のものを此處に持運ふは技術上困難であり、又不經濟である爲めに此の市場によつて集化せられる經濟社會の領域は狹少ならざるを得ない。從つて大なる分業による經濟的進歩は行はれない。(二)(三)生産の指揮や財貨の移動の方針を示す交換價値は物資を一應生産し、之を市場に持ち運んで後定まるものであるからして、これは後の生産及び運搬の指針となるに止まり、既に生産せられた財貨は無用のものであり、又需要者なき市場に運び入れられることがあるのである。而して此等の缺點は皆之れ分業集化の手段たる交易が物に拘束せられる結果である。故に萬一かかる物質に拘束せられない市場が成立し其の生産及び分配上に於ける二つの職分を行ふに於ては此の缺陷は除去せられるものである。

(一)　O. penheimer, a. a. O., S. 353 ff.

（二）本誌第十八卷第七號經濟政策の極致參照

五

經濟的集化が物質に拘束せられる結果は、先づ財貨の生產、移動があり、而して後此の狀態にある財貨を中心として賣主及び買主を結合せんとするものである。而して此際此の財貨の種類品質數量代價及び其他の條件等に關する兩者の要求が全然一致した時に始めて交換は行はれるのであつて、若し交換が行はれない時は、此の財貨の生產と移動の爲めに既に費やしたる勞費は無益のものとなるのである。然るに今若し此の經過を逆にして、先づ一定の種類品質代價其他の條件を定める。換言すれば財貨に關するあらゆる狀態を觀念として表示し、此の財貨の觀念を中心として賣買兩者を聯結し以て市場を形成し、而して後此の市場に於て生ずる交換價値の命ずる所に從つて生產及び其移動が行はれるに於ては、前述の現物市場に伴ふ經濟上の不利益は全然除去せられたものである。茲に所謂觀念(idea)とは現場に存せざる事物の意識であつて、吾人の官覺に觸るる事物の意識たる知覺(Perception)とは別個のものである。目前に林檎を見るものは之を知覺し、林檎のある表象(Symbol)を見るものは之を通して林檎の觀念を得るものである。(一)此故に林檎の知覺も、其の觀念も共に林檎なる經濟財の意識(Awareness)であつて、其背後に於ける林檎なる實體に於て異なる所はない。けれども之が市場形成に及ぼす作用に至りては其間に非常なる差異を生ずる。蓋し財貨の交換關係が知覺を基礎としなければならぬ場合には其取引は常に具體的實物に拘束せられ、人は此の經濟財の所在と移動を離れて何物をもなすことが出來ない、此の爲めに非常の經濟的不利を生ずること前論の如くである。然るに若し此の經濟財が言葉、繪畫、寫眞、模型其他の表象によつて代表せられ觀念として表はすことが出來る場合には、第一、交換關係の精神的方面は最早何等物質としての財貨の拘束を受くることなく、物質を離れて到る處に、又物質の未だ生產せられざる以前に既に早く需要と供給、其交換關係は決定せられるものである。從つて觀念に基く市場には意思通達の通信設備があれば足りるから最も容易に其の市場の版圖を擴大することが出來るものである。第二、生產及び運輸の技術的方面は既に此の觀念に基き決定せられたる關係に基き秩序的に行はれるからして其間に齟齬の生ずること少

なく、無用の勞費に終はる危險少なきを以て大膽なる生產と運輸の方針を定めることが出來るのである。而してかかる觀念市場の領域大なるに於ては茲に集合需要は增大するを以て分業と運搬の抵抗は容易に除去せられるものである。(二)

以是觀れば分業に基づく各經濟單位を集化して一經濟社會となすには二つの職分を必要とするものである。第一は精神的方面である(a)此の職分は權力により分業が集化せられる場合には特定の人の調査に基きて需要供給の狀態數量を決定せらる。(b)若し又分業による社會的分化が交換によつて集化せられる場合は、此の交換關係は、物質を離なれ觀念として思考上獨立して表現せられることの出來るものである。社會に於けるある財貨に對する需要と供給が觀念的に相連續せられる時は此の交換關係を總稱して之を余は觀念市場と云はんと欲する。而して觀念市場には勿論茲に當然價値關係が發生するものである。從つて觀念市場は價値の世界、無形の世界である。

第二は技術的方面である。此の職分は全く具體的のもので、現實に財貨が生產せられ、移動せられ、分割せられ、貯藏せられ、配給せられるものである。則ち物質の世界である。所謂商業は財貨の場所的及び時間的調節をなすとは此の謂に外ならない。

然かり而して此の二つの職分は財貨が觀念によつて代表せらる場合には最も明かに分離し、然らざる場合には觀念市場は物質より獨立して明白には表はれて來ないものである。其の爲めに經濟上の不利益を生ずること前述した所の如し。(三)(四)(五)

(一) Scott, Psychology of Advertising in Theory and Practice, pp. 6-11

(二) 觀念の世界が物質の世界を左右することに就いては「拙稿經濟的集化と觀念市場」參照」

(三) 商業は價値形成の行爲(投機的職分)と技術的行爲の二つに分つことは、簡單で從つて稍漠然とはしてゐるけれど既に諸學者の指摘してゐる所である。Cohn, Grundlegung, S. 462-3. Lexis, Der Handel (im Schonberg's Handbuch) S. 463. Oppenheimer, a. a. O., S. 220-1. 只 Ehrenberg が財貨の場所的間隔を除くを商業とし、時間的間隔を除くを投機としたのは一つの異説である。(Der Handel S. 33)

(四) 以上の諸學者は商人の價値形成の行爲(投機的職分)を商業の本質としてゐる。けれども米國の學者には投機的職分及びこれに伴ふ投機的利益(Speculative profit)を受く

るは商人の眞の職分でない、財貨の技術的配給をなす職分及び之に伴ふ確實なる商業上の利益(trade profit)を受くるこそ却つて商業の本領であると云ふものがある。蓋し見解の相違であるが一般配給機關が機械化し、投機的職分を採るものが一方に集中しつつある事實は看過することが出來ない。(Mataja, Die Reklame, S. 475)

(五)　Wiedenfeld は卸商は供給物と需要物の時間的場所的調節を計る職分と、代價形成の職分の結合であつて、前者は物量の轉移、後者は代價を內容となす。前者は商業の現物職分(Vorrat と Bedarf の調節)後者は投機職分(Angebot と Nachfrage の調節)であると云つてゐる。(Wesen und Wert der Zeutralproduktenbörse, S. 8)

六

生產と消費、需要と供給が物質の拘束を離れ、觀念によつて一致せられる以上は茲に市場の區域は容易に擴大せられるものである。蓋し中世の市場が都會と田舍、又は比較的近距離にあるものの間に限られ、又は定期市の如きは一年中一回又は極めて僅かの回數に限られたのは蓋し市場の形成が物質に拘束せられたが故に外ならないのである。歷史上此の意味に於ける觀念市場が先づ成立し、地方的市場の限界を打破して國內的又は國際的市場たらしめたものは見本による交換の成立であつた。此の方法が行はれるやうになつて、人は交換を行ふに際し最早や現物に就いて見るの要なく、從つて隔地者間に於ける取引が可能となつたのである。此方法による市場形成が特に著るしく表はれて來たのは十八世紀の中葉英國に織緯工場の機械生產が行はれた以後のことである。蓋し器械生產の發達は同一品質、同一形狀の財貨を生產せしむることが出來るからして茲に一個の商品は全部の商品を完全に代表する表象となり、商人は此の一個を見本とすることによつて、何等大量貨物の運搬に惱まされることなく、到る處に其市場を擴むることが出來るのである。實にかの英國の紡績工業が從來未だ見ざる程度に生產の大擴張をなすことが出來たのは器械の發明や、需要の增大の結果ではなくして、實は器械生產によつて可能となつた見本賣買が人の經濟活動の拘束性を解除し、市場の擴大を容易ならしめた結果に外ならないのである。(一)

洵にSombart教授の云へるやうに見本賣買による取引方法の出現は舊商業組織に對する革命であつた。(二)けれども見本賣買も尙分離せる生產者と消費者を聯絡する方法としては尙或る程度迄運輸の障害を受けるものである。蓋し人が見

本を携帶して、自づから各地に趣き、未知未聞の得意を發見するに努めなければならぬからである。之に比すれば近世の廣告による市場形勢は物資と觀念の分離し、人の活動の拘束性を解除する上に於て出張販賣員による見本賣買に優るものである。此の方法に於ては一つの見本を必要とせず、自づから各地に到りて需要者を求むるの要なく、只一定の紙上に財貨に關する觀念を抽寫記錄するによつて之を經濟社會全般に傳へることの出來るものである。斯の如くして生産者又は商人は仲介商人又は物資の援を籍りず座ながらにして消費者との觀念的聯絡を造くることが出來るのである。而して此の近世廣告が今日の商業組織に如何に大なる意義を有するかは、かの現代の大々的企業特に百貨商店及びメール、オダー、ハウスが只廣告によつて全都市又は全國に亘る消費者を直接得意として其經營を維持し得るに見て明かである。而して今や此の廣告の制度は見本賣買が舊商業組織を破壞したるにも等しき大革命を經濟社會に及ぼしつつあるものである。

(1) Wolfel, Der Handlungsreisende, S. 13-31.

(11) Sombart, Der Moderne Kapitalismus Bd. II 1 S. 503-5.

七

中世地方的に局限せられた市場は斯の如くして全國、全世界を包括することが出來、茲に生産者と消費者は觀念によつて容易に結合せられるに至つたものである。かの一定の場所、設備、人の集合等物的事實を示すと考へられた市場なる概念が近世賣買兩者の交換關係なる無形の狀態を示す言葉として用ひられるに至りしも蓋し此爲に外ならないのである。則ち觀念市場が成立したのである。けれども中世の都市のやうに一定の場所に人が集合し茲に賣買する時はその需要と供給の狀態は尤も明白に表現せられるものである。然るに市場關係が前述の如く全社會に擴大せられる時は其交換關係は擴大せられたる丈それ丈云はば稀薄とならざるを得ない。茲に交換關係の稀薄と云つたのは需要と供給の狀態換言すれば市場の氣配が明白に、敏速に表はれないとである。則ち市場はextensiveとなつたけれども、intensiveの度を減したのである。大なる版圖に亘る需要物量(Bedarf)と供給物量(Vorrat)を包括するとは出來たけれども、需要(Nachfrage)と供給(Angebot)並びに其の相關たる價値關係は明確に敏速に表現せられないやうになつたのであ

る。此の結果として此種觀念市場は吾人が本論四の項目に述べたやうな生産者と消費者を聯絡すると云ふ市場の第二職分を行ふことが出來るけれども、價値關係が明白迅速に行はれないから、財貨の生産及び移動指揮と云ふ第一の職分は之を完全に行ふことが出來ないのである。從つて實物市場に優るとするも、尙市場として完全に其の職分を盡くしてゐるものと云ふことは出來ないのである。然かり而して此の原因は市場が擴大せられて交換關係が漠然となつたに歸因するものであるからして、此種の變換關係、需要供給に基く代價形式を明白、迅速ならしめんとするには此の擴大せられたる交換關係を再び intensify しなければならない。茲に於てか現代經濟組織に於ける市場が其二大職分を盡くさんとするには一方には社會にある供給量及び需要量を包括し得る交換關係を成立せしめなければならぬ。則ち市場は擴大せられなければならぬ。第二には其の交換關係に基く代價形成は明白且つ迅速に表現せられなければならぬ。此の爲めには交換關係は集約せられなければならぬ。而して此の矛盾せる要求をよく調和し、經濟社會の必要に應ずるものは則ち組織的觀念市場である。蓋し觀念市場はよく全社會の需要供給を包括することを得可く、交換關係は之を組織するによつて集約し得るからである。

八

市場を組織するの必要があるのは市場が其第一職分を行ふ爲めに眞の需要と供給に應ずる代價を敏速に、而も明白に表はさんが爲めである。然るに組織せられざる觀念市場は容易に相手方に觀念を傳ふることを得るも、而もこれには相當の時間を必要とし、相手方が之に應ずるや、明白ならず、之に應ずるとするも之を知るには比較的長時間を必要とし、即時即刻機に臨み變に應じて賣買するの可能性のないものである。又幾何の需要あり、幾何の供給ありや、之を知ることも容易でない。之を知るの可能性あるも表面に明白に表はれ來ないものである。特に此の組織せられない觀念市場の代價形成上に於ける缺點は農産物の場合に特に表はれ不都合を生ずるものである。而して其の理由は大體次の如き事情に基くものである。

（一）工業製造品は大量生産に基くから其の供給者の數比較的少なく、從つて供

給量も亦容易に測定することが出來るけれども、農產物は數萬數十萬の小經營の生產にかかるものであるから社會に於ける供給全體を推測すること困難である。

（二）かかる小量宛の生產物は漸次に集められ中央市場に於て其最大量に到達するものである。かかる大量を取扱ふ商人は工業とは異なり其單個に就いて大なる利潤を要求することが出來ない。彼等が大なる利益を得る道は第一にはなる可く資本を迅速に回轉することである。從つて此の爲めに又大量は之を出來得る限り大量として賣却し、以てなる可く手數と費用を省かなければならない。

（三）次には景氣の變動をなる可く利用しなければならない。換言すれば彼等は大なる商業利潤を得ることが出來ない以上はなるべく大なる投機的利潤を得なければならない。少なくとも代價の變動の危險を防止しなければならない。此の爲めには一般市場の需要供給を容易に觀測し得るの方法を講ずるの要がある。

（四）工業品の代價に於ては勞働の費用が大部分を占めるけれども、農產物に於ては自然の產物たる原料の費用が大部分を占めてゐるのである。然るに原料品は其年の自然の影響によつて著るしく作用せられ從つて代價の變動も激げしい。

然るにかかる原料は工業品代價に於ては只其一部しか占めないから此の爲めに工業品の代價の左右せらるることは比較的少ない。加之工業品は前年度分の蓄積があり又必要に應じて生產高を或る程度に增加さすことが出來るけれども、農產物は普通年一回の收穫で、其年の物は其年內に消費せられるのが普通であり、又不足したればとて增加し得ないのである。此等の事情の下に於て農產物の代價は工業製品に比し其代價の變動著るしいものである。從つて之を取扱ふ商人はなる可く代價變動による危險を防止しなければならない。

此等の事情は皆社會に於ける需要供給を明白にし、之に基く代價を明白、確實に形成し、之に應じて生產し、又は配給を營み、又代價變動に伴ふ危險を防止することが私經濟の立場よりして缺く可からざることを示すものである。

九

商業は其本質上個人主義的のものであり、自由競爭を好むものであることは一般世人の暗默の內に理解してゐる處であるが、かかる事情の下に於て、特に農產物を取り扱ふ商人に採りては個人主義と自由競爭は禁物である。（a）大量取引を（b）

迅速に且つ確實に行ひ、(c)一般的の需要と供給の關係を概觀して其の將來の景氣を察知し、(d)常に賣買の機會を捕ふることは個人主義、自由競爭の下に於て之を期待することは出來ない。必ずや一定の組織と秩序を定め之に利用し、之に從つて行動するを要するのである。所謂組織的市場(Organised Market)則ち是であつて、洵に近世最高度に發達したる市場は之を原料其他の農產市場に見るのは其の理由に基くものに外ならないのである。

然らば組織的市場とは何ぞ、組織的市場とは一定の組織と秩序を有する市場であつて、取引が此の組織と秩序に關する限りは全然個人的自由と色彩の認められないものである。市場の組織は取引の舞臺、主體及び客體より成り、市場の秩序とは取引の凡ての條件を定むる規約を云ふものであつて、かかる市場に於ける取引は凡て此の規約の下に律せられるものである。

取引の舞臺とは取引の行はるる場所、設備及び其の開かれる時期を云ふものである。則ち取引せんとする者が何れも皆一定の場所に一定の時を定め集合することによつて始めて賣買の機會容易に生じ需要と供給の狀態は容易に表現せられるものである。而して茲に集まる者の數の多きに從ひ、之を開く時期の頻繁なるに從ひ取引の機會は大となり、一般的需要供給は一層正確に表はれるものである。而して凡ての人を茲に集めんが爲めに、此の場所の外に成されざる取引に對しては特に市場の保護を與へないことを定めるものがある。

茲に集合するものは一定の財貨を賣買せんが爲めである。換言すれば之等の人々は特定の財貨によつて集合せられるものであるからして、取引の目的が豫め一定してゐなければならぬこと勿論である。而してかかる市場には只一種の財貨のみを取引するもあれば、勿論數種を取引することも得可く、其財貨は現物によるも得可く、見本たり得可く、又銘柄によることも出來る。何れにしても豫め定めて置かなければならない。

取引の主體とは勿論取引する人々である。此等の人々は其數の多きに從ひ市場の範圍と賣買の機會は大となるものであるけれども、大量取引のためには資力ある人を要し、迅速なる取引のために取引のことに熟達し、且つ信用の慥かなる人の集合たるを要す。換言すれば市場に集まれる人は何等の調査なくして充分に

信用し得可き人たるを要する。かかる資力裕かにして信用ある人々の集合たる場合に於て初めて大量取引は最も迅速に行はれるのであつて必ずしも人の數によるものでない。

取引の條件規約とは現物の引渡し、代金の支拂、品質の保證、異なれる品質に對する格付、契約不履行に對する責任等、凡そ取引上に當然起ること、又起り得ることに就いて豫め規定を設け取引する者は一一之等の條件を協定契約するの煩なく、迅速に取引を締結し得るものである。

以上掲げたる事項が豫め規定せられる時は商人は最早只其場所に規定の時に臨むことによつて何時、何程にても賣買し得るのであつて、又其最も發達したる市場では彼等は賣か又は買を決意する以外凡てのことは既に規定せられてゐるからして、極めて簡單に、例之一本の手の動作一言の符牒によつて如何なる大量の取引も、何等相手方の信用に對し何等の掛念なく取引し得るのである。而して取引所の如き此の例である。けれども又時には取引所に於けるが如くあらゆる點に於て豫め規定せられたものでなく、從つて其組織の度が可成り緩かで個人的自由の色彩の濃厚なこと食料品小賣市場の如きもある。併れども何れにしても今日の文明國の農產物の卸取引には、緩かか又は嚴密の相違こそあれ、全然組織せられない市場、換言すれば中央市場に於ける卸商が相互間に團結組合を造くりて一定の場所に會合し茲に取引する契約條件を定めてゐないものはないのである。而して之等の團結をなす人々は前に述べたやうに資力あり、且つ信用あるものでなければならぬから其の一つの組合に屬する組合員の數は比較的少ないのである。此の意味に於て世界に於て有名なる大取引場は勿論、穀物の世界的現物市場たる倫敦の Baltic Exchange 全歐洲の羊毛の配給を司る倫敦の Auction 我國の深川正米市場の如きも共に之れ組織的市場である。只それぞれ組織の程度に寬嚴の差あるに過ぎないのである。

一〇

之を以て見れば組織的市場とは賣買の代價及び決意の外全然個人的自由の許されない市場である。各取引には全然個別的の區別のないものである。而して凡ての點に於て此の個別的色彩を認むると否とは則ち組織の寬嚴の分かれる所

である。此の故に組織的市場は現物に就いても亦行はれ得るものであるけれども、眞の現物取引は大量取引に適せざること前述の如くであるからして、此種の市場は如何に其の組織の緩かなるものでも、其取引は所謂食料品市場を除けば皆見本賣買によるものである。從つて一種の組織的觀念市場に屬する。從つて容易に賣買の機會を得可く、又交換關係も明白に表はれるのである。見本賣買による取引方法は工業品の配給に於ては物質の拘束性を解除するものとして發達した る形式であるけれども、組織的市場を必要とする貨物、則ち需要量供給量の測定し難く、代價の動搖の甚だしき貨物の取引形式として尙甚だ幼稚なるを免かれないのである。

蓋し見本による賣買は尙現在何處かに貯藏せられたる現實の貨物を基礎とするものである。此の故に尙運送中の貨物尙市場に出でざる貨物は見本賣買によつて賣却することの出來ないものである。從つて社會に於ける全供給量が現實に表現せられない。從つて只其の一地方に現に存在する供給を基礎とする代價しか表はれないのである。更に又見本によつて其品質を欲する買手を發見し得ない時は長く之を保藏しなければならぬのである。而して何れの場合たるを問はず之を賣却し得ざる間は、之を所有する者は其間に發生する代價變動の危險を負擔しなければならぬ。從つて見本賣買による組織的市場に於ては其品質の財貨の地方的の供給量及び需要量に基く代價は明白に表はれ、又迅速なる大量取引も可能であるけれども、全社會に於ける需要供給を表はさない。從つて又之に適應する一般的の代價を表示しない。特に代價變動に伴ふ危險を防止することの出來ないのは最も大なる缺點なりとせざるを得ないのである。而してこは特定の財貨が其の見本と全然其品質を同じくしなければならぬ事實に歸するものである。

二

茲に於てか吾人は更に又財貨配給上に於ける一つの矛盾に遭遇するのである。則ち一方には文化の發達、嗜好の向上は益々品質の相違する各種の財貨を要求する。然るに他方に於ては財貨の配給に從事する者は代價變動の危險を益々防止せんとするの必要に迫まられるのである。而して此の必要は市場關係の範圍が

擴大するにつれて益々增大するものである。これ生產地及び消費地の範圍大となれば代價に影響を及ぼす事情を知ることは益々困難となり、品質又異なつてくるからである。而して此の代價の變動を防止せんとするには何等現物、從つて又品質に拘束せられない市場を要求するのである。蓋し見本を必要とせず、只一定の財貨を賣買することになれば此の組織的市場に於ける凡ての人は皆同一種の貨物を其の取引の對象とするものであるからして容易に之を賣買することが出來るのである。則ち此の場合の賣買の目的物は一つの觀念たる銘柄であるからして現物に拘束せられることは全然ないのである。從つて觀念は觀念として賣買し、現物は現物として賣買することによつて現物に伴ふ代價變動の危險は全然除去せられるものである(掛繫取引)。斯の如く賣買が觀念によつて行はれる以上は其取引は現物の所在に拘束せられない、從つて全世界の市場に出つ可き同種商品の凡ての供給を目標として賣買出來るのである。茲に於てか全世界又は全國に於ける需要と供給は凡てこの組織的觀念市場に intensify せられて其縮圖となり、從つて之に應ずる變換關係は代價形成となりて最も明白に表はれるものであるけれども此の觀念は假想ではない、其背後には實在貨物の存在を前提とするものである。則ち觀念と知覺は一致しなければならない。此の爲めに觀念の賣買は見本取引に於けると同じく當然賣買の技術的經過、則ち實物の引渡を其の結果として惹起するものであつて、之を生ぜざる場合は一定期間內に賣買兩取引をなして受渡の相殺せられたる場合に限ること、見本取引に於けると異なる所はない。而して之れ又觀念の賣買と賭博又は純粹の差金取引(Reine Differenzgeschäfte)の異なる所である。此の故に此種の組織的觀念市場に於ける代價の變動は當然特定の品質の代價を變動し、又地方による代價の相違も之に從つて變動するからして茲に掛繫取引によつて現物取引に伴ふ代價變動の危險を防止することが出來るのである。

斯の如く代價變動の危險は各取引の間に品質の相違を認めない所の觀念の取引によつて可能となるものであつて、取引が特定の品質に拘束せられず、同一のものとなるによつて、組織的觀念市場は其發達の最高度に達するものである。則ち取引所に於ける定期取引(清算取引)は之である。之れ則ち Weber, Ehrenberg 及び Bernhard 等が取引所取引の目的物が代替的貨物(Fungible oder Vertretbare Tauschgüter)

であることを強調する所以であるけれども、而も取引所取引其物は前述の如く既に凡ての點に於て標準化せられ、統一せられ、一つの取引と他の取引との間には個別的色彩や相異のないものであつて、標準化は單に目的物にのみ限る現象ではないこと誠にSombart教授の指摘の通りである。(註)けれども、賣買の目的物を標準化したる所に組織的市場は最高度に發達し定期取引が可能となるものであるからして此點より見て、取引所の特徴を代替的貨物に求むるのは必ずしも不當なりとしないのである。

(註)　Sombart, Die Juden u. das Wirtschaftsleben. S. 95.

一三

取引所の定期取引はもと商人が代價變動の危險を防止せんとする私經濟的必要より發生したものであるけれども(一)、一度此の技術が組織的市場に起るや、組織的觀念市場は其の發達の最高度に達し、茲に此の市場は市場の國民經濟に於ける職分を完全に行ふに至るものである。則ち最高度に發達したる觀念市場であるからして、茲に取引は全經濟社會に於ける同種貨物の需要供給を其の所有者と所在を問はず、凡て其の取引の目的物となるのである。換言すれば全社會の需要と供給が茲に集中せられるのである。組織的市場であるからして其の需要と供給の相關は代價となりて最も明白に茲に表現せられるのである。茲に於てか取引所は私經濟上の必要に基く代價保險の手段からして、國民經濟上に於ける代價形成の機關となつたのである。而して此の代價は社會に於ける生産及び財貨の移動の指針となり、最も經濟的に之を行ふことが出來るのである。

此の點に於て地方的の小取引所は代價形式よりも寧ろ主として地方に於ける現實貨物の配給に其用をなすものであつて、其代價は一方には一地方の在荷貨物の需供を表はし、他方には中央大取引所の代價に追隨し來たるものである。かの米國に於ける紐育及びNew Orleansを除く他の地方のCotton Exchangeは悉く之れ見本賣買による取引所である。又New York Produce Exchangeは世界的の大取引所で數十種の取引が行はれるけれども、清算取引(定期)の行はれるのは穀物外二種に過ぎない。穀物取引の會員の中でも三分の一以上は全然定期取引を利用しない人々である。(二)而して此種の取引所は歐洲に於ても多く見ることの出來る所であ

る。此の點に於て我國の地方の小都會に於て定期取引を主とする取引所の存在の價値は當然疑問となるのである。

（一）　Wiedenfeld, a. a. O, 6 ff, Göppert, Über das Termingeschäft, S. 30 f. u. Hirsch, Der Handel S. 81.

（二）　The Annals of the American Academy of Political and Social Science: vol. 38, No. 2, pp. 218-219.

一圍

中央取引所と地方取引所の間に分業が生じ、一方は代價形式機關として意義を有し、他は實際の現物取引に利用せられるやうに、商人の間にも又現物商人と投機商人の間に分業が發生した。則ち現物商人は實際貨物の配給に從事し、代價變動に伴ふ危險は之を投機商人に轉稼するに至つたのである。彼等は只將來の代價の變動を測定することを其の任務とするものであつて、苟くも將來の代價に變動を生ずる要素は悉く之れ彼等の注意して怠らない所である。而して此の推測に基きて彼等は取引所に於て賣買を行ふものである。勿論彼等は現物を受渡しする意思のないものであるからして買ひたるものは機會を見て賣却し、賣却したるものは更に之を買ひ入れ、以て其の間に利益を得んとするものである。而して此等の多數の投機商人の推測が組織的市場に於て競合する結果として一定の代價が取引所に於て成立するものであつて、從つてこは代價變動の推測を其任務とする之等の人々の推測の綜合結果と見ることが出來るのである。而して此の代價は前述の如く一般社會の生產及び分配を支配するの指針となるものである。

之を以て見れば今や資本主義社會に於て生產及び分配を支配する交換價値を作り出すものは社會に於ける凡ての人々ではなくして、只中央取引所に於ける比較的少數の人々の任務とする所であつて、而して其職分は共產主義社會に於ける一部の人々の此の爲めに行ふ職分と何等異なる所あるを見ないのである。